

持続社会

電池が中心的役割

ノーベル賞吉野さんが記念講演

【ストックホルム時事】今年のノーベル化学賞を受賞する吉野彰・旭化成名譽フェロー(71)が8日昼(日本時間同日夜)、ストックホルム大会で記念講演した。授賞理由となつたりチウムイオン電池の開発について語り、持続可能な社会を実現する上で「電池は中心的な役割を果たす」と強調した。(3面に講演要旨、関連記事)

吉野さんは共に受賞するジョン・グッドイナフ(97)、スタンリー・ウィッティンガム(77)とこれまでの試行錯誤と環境問題への貢献を解説した。電極の材料発見には、過去に同賞を受賞した故福井謙一博士と白川英樹・筑波大名誉教授(83)

西に続き登場。「リチウムイオン電池の開発経緯

とこれから」と題し、スライドを使いながら実現

までの試行錯誤と環境問

題への貢献を解説した。

吉野さんは「当時ばかり

」と訴えた。

人生における最良の決

断として、京都大への進

学などとともに「素晴らしい女性」という妻久美子さん(71)との結婚をする

と話した。

吉野さんは「當時ばかり

」と答えた。

吉野さんは会見後、ストックホルムの日本人補習学校を訪れ、児童ら約160人を前に講演。小

学生の時に英科学者ラディーの著書「ロウソクの科学」を読んで科学に興味を持ったエピソードなどを紹介した。

児童らから研究は楽し

いからと聞かれると「基本

的にしんどいがうまくいくと楽しい」と応じた。

理由の一つに「持続可能な社会の構築が期待されている」と指摘。環境問題と経済性、利便性は同時に解決できるとし、「持続可能な社会はすぐ実現でき、リチウムイオン電池が中心的役割を果たす」と評した。

吉野さんは少し緊張した様子だったが、終了後は車椅子に乗ったグッドイナフ氏と笑顔で握手。聴衆から万雷の拍手を受けた。

吉野さんは10日夕(日本時間11日未明)に授賞式でメダルを受け取った後、晩さん会に出席する。

吉野さんは「當時ばかり

」と答えた。

吉野さんは「企業の研究者はノーベル賞取るのは難しい

と言ってきた」と語り、若手研究者らを鼓舞することに期待を寄せた。

吉野さんは「當時ばかり

」と答えた。

吉野さんは「企業の研究者はノーベル賞取るのは難しい」と言ってきた」と語り、若手研究者らを鼓舞することに期待を寄せた。

吉野さんは「當時ばかり

」と答えた。

吉野さんは「企業の研究者はノーベル賞取のは

い」と答えた。

吉野さんは「企業の研究者はノーベル賞取のは

い」と答えた。